法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

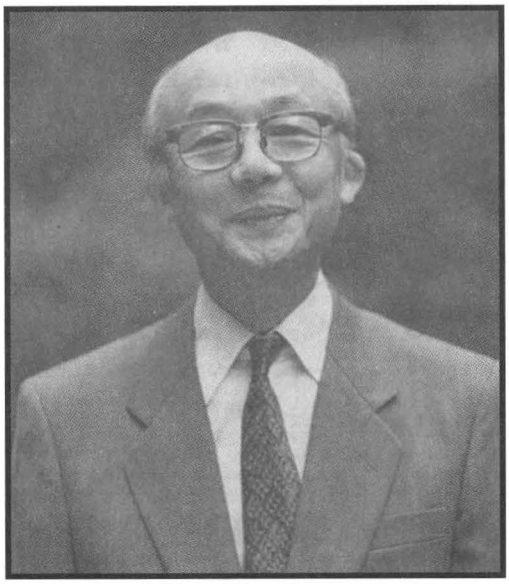
PDF issue: 2024-10-21

市瀬由自先生のご逝去を悼む

佐藤，典人

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理
(巻 / Volume)
41
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
2
(発行年 / Year)
2009-03-10

市瀬由自先生のご逝去を悼む



本会の元会長で，名誉会員でもいらした市瀬由自・法政大学名誉教授は，2008年５月28日，ご病気のためにご逝去されました．享年80歳と２ヵ月弱であった．ここに先生の地理学，とりわけ地形学の研究と母校の教壇に立って後輩諸氏への永年にわたる教育へのご尽力に対して，深く感謝申し上げるとともに，謹んでここに哀悼の意を捧げる次第である．

先生は1928年４月に長野県下伊那郡龍江村（現・飯田市）に，次男ながらも４人兄弟の末っ子として産声をあげた．先生は地元の小学校，中学校に進まれた時に，すでに地理や考古学的な事象に深く関心を寄せていたと，生前，先生から耳にしたのを覚えている．先生の研究対象とした地形学は自然地理学の骨格をなし，まさにフィールドワークがその基本であり，その点からしても，伊那谷や中央アルプスなどに囲まれた南信州の自然は，格好の学ぶ動機を付与するに十分であったように思える．いわゆる『教育県』の信州に生まれ，身近な場所での野外観察などを体験するうちに，次第に「地理」という学問分野に引き込まれていったのではないかと，想像するに難くない．

そんな折，伊那地方へ地形調査に訪れていた故・多田文男先生とお会いしたのが，先生のその後の運命を大きく左右したのには言を待たない．顧慮すれば，人間の人生というものはとても偶然的な事柄を契機に歩んでいるように思える．先生の踏みしめた80年の道程からも，この事実を伺える．1948年４月，春まだ浅き伊那の故郷を離れて先生は上京され，当時，夜学であった法政大学高等師範部地理歴史科に入学された．その傍ら昼間には，（財）資源科学研究所の助手（その後，1970年３月まで嘱託として勤務）として働いた．この研究所では，地理学の分野は当然ながら，周辺諸科学の多くの研究者とも交流する機会を得たようである．誠に羨ましい環境である．

その後，学制改革に伴って新制大学として始動した文学部地理学科に編入学され，続いて1953年４月には，新設された法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻修士課程の第１期生として入学された．さらに同博士課程へ1962年４月に進まれ，それと同時に研究助手として法政大学に採用された．その３年後に専任講師に昇格し，以来30数年間もの間，主に地形学を中核として教鞭をとられてきた．この間，数多くの学部生，通信教育部生，ならびに大学院生を懇切丁寧に指導して，世に輩出してきたことには多くの説明を要すまい．

地形学に関してまったくの素人ゆえ，そのわが門外漢も顧みずに，先生のご研究を振り返ると，その多くの源泉は，若い頃に勤めた（財）資源科学研究所に辿り着く．実際，日本に襲来したいくつもの大型台風で生じた水害の調査がその頃の仕事であると先生は回顧していた．その一方で林野庁の治山治水に関する研究にも強い関心を寄せた．研究の足跡からして，先生の関心事は河川源流部での地滑りや崩壊地の形成，それに起因する土砂礫の生産と運搬にあったように思える．地理学評論に掲載された多良岳火山の山崩れや狩野川，吉野川の水害等々の一連の研究は，そのことを物語っている．それと同時に科学技術庁の専門委員を務められていた関係から，それに関わる仕事も教育・研究の合間を縫ってこなしてきた．とても多忙ながら，その半面では大変に充実した日々だったのではないかと追想できる．さらにその後，先生の研究上の視点は，山地から平野へと推移し，とりわけ人間の生活の舞台となる沖積平野の地殻運動やその形成過程へとシフトした．この観点からの研究成果の多くは東北地理学会の機関誌で公表されている．

しかし，先生はいつの頃からか目を患われ，地形研究に求められがちな空中写真の実体視に不自由を感じられるようになった．一時，治療のために入院され，奥様に手厚い看護をして戴いたと仄聞している．後日，先生は笑みを浮かべて奥様への感謝の談をしみじみと語られていた．家庭において先生は奥様と３人のお嬢様に，いつも“四面女性”の状態で囲まれて，とても羨ましい限りであった．去る８月の新盆前，ご焼香に訪ねた際にも，生前の先生の家庭での優しさぶりが強く感じられた．常にご自分の健康に細心の注意を払っていた先生だけに，学部係経由で地理学教室に届いた突然の訃報には一同，驚愕し，天に召されたその早いご逝去を嘆いた．ここに改めて奥様をはじめご家族の皆様に対して衷心よりお悔み申し上げ，ご冥福をお祈りいたします．

合掌．　　2008年12月１日　佐藤　典人

1964年３月14日地理学科卒業論文面接時の部屋にて
［後列右端が市瀬由自先生］
『法政大学史学科・地理学科の半世紀』（1987年11月）の相原正義氏の記述から引用.

1979年４月地理学教室のスタッフと法政大学市ヶ谷校地にて
［後列中央が市瀬由自先生］
『法政大学史学科・地理学科の半世紀』（1987年11月）から引用.